

出エジ14 出エジプト記11章1節～10節

「第十の災いの予告」

1. 文脈の確認

- (1) エジプトに主からの10の災いが下る。
- (2) 10の災いの記述は、考え抜かれた形式美を持っている。
- (3) $3 \times 3 + 1 = 10$ という形式になっている。
- (4) きょうの箇所は、フィナーレへの準備である。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 【主】からモーセに（1～3節）
- (2) モーセからパロに（4～8節）
- (3) 9つの災害のまとめ（9～10節）

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 偶像礼拝の愚かさについて
- (2) 神がなさる区別について
- (3) 賜物について

このメッセージは、人生そのものを考えさせるものである。

I. 【主】からモーセに（1～3節）

1. 挿入句である

- (1) 10:29と11:4とはつながっている。
- (2) 11:1～3は、【主】がモーセにすでに語っておられた内容である（英語の過去完了形）。

2. なお一つの災いが下る。

- (1) その後で、パロはイスラエルの民を去らせる。
- (2) 大人も、子どもも、男も、女も、家畜も、あらゆるものがエジプトを去る。

3. エジプトから財産を求めるように

- (1) 銀の飾りや金の飾り。それ以外の物もあったはずである。

(2) これは、長年にわたる賃金の取り分である。

(3) 【主】は、労働者に正当な賃金が支払われることを願われる。

「パロの娘は彼女に言った。『この子を連れて行き、私に代わって乳を飲ませてください。私がああなたの賃金を払いましょう』。それで、その女はその子を引き取って、乳を飲ませた」(出2:9)

「あなたの隣人をしいたげてはならない。かすめてはならない。日雇い人の賃金を朝まで、あなたのもとにとどめてはならない」(レビ19:13)

(申15:18、24:15など参照)

「見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いていません」(ヤコ5:4)

4. エジプト人の心理の変化(3節)

「【主】はエジプトが民に好意を持つようにされた。モーセその人も、エジプトの国でパロの家臣と民とに非常に尊敬されていた」(新改訳)

「主は民にエジプトびとの好意を得させられた。またモーセその人は、エジプトの国で、パロの家来たちの目と民の目とに、はなはだ大いなるものと見えた」(口語訳)

(1) エジプト人から無理やり財産を奪うのではない。

(2) 9つの災いの結果、エジプト人たちはイスラエル人に好意を持つようになった。

①さらに第10の災いが下る。より尊敬するようになる。

(3) モーセは、偉人と見なされた。

①彼が予告した通りに災いが下った。

②彼が祈ると、災いは止んだ。

③彼に逆らうと大変なことになる。

II. モーセからパロに(4~8節)

1. 10:29の続きである。

(1) 「真夜中ごろ、わたしはエジプトの中に出て行く」

①擬人法

②アビブの月(ニサンの月)の14日

③朝、あるいは昼間に、モーセはこれをパロに語っている。

④夕暮れに子羊をほふる。

⑤その夜それを食べる。ユダヤ暦では15日になっている。

⑥真夜中ごろ、裁きが行われる。

2. 初子が打たれる。

- (1) 民族の存続は長子を通じて維持される。
- (2) エジプト人は、死後の命に強いこだわりを持っていた。
- (3) 長子の中に自分の命が生き続けているという認識があった。
- (4) パロの長子は、次に神の地位を継承する器である。
- (5) すべての初子が死ぬ。

- ①パロの初子
- ②女奴隷の初子
- ③家畜の初子

- (6) エジプト全土に大きな叫びが起こる。

3. エジプト人とイスラエル人の区別

- (1) イスラエル人に対しては、犬もうなりはしない。
 - ①真夜中に物音がすると、犬はうなり声を上げるものである。
 - ②イスラエルの民は、なんの妨げもなくエジプトを出るようになる。

4. パロの家臣たちの懇願

- (1) 彼らは、イスラエル人がエジプトを出てくれるように懇願する。
- (2) パロの支配権がなくなる。
- (3) モーセが優位に立つ。
- (4) その後、イスラエル人はエジプトを出て行く。

5. モーセはパロの前を立ち去る。

Ⅲ. 9つの災害のまとめ(9~10節)

1. 【主】はモーセに語っておられた(過去完了)。

- (1) パロはあなたがたの言うことを聞き入れないだろう。
- (2) 人間の責任と、神の主権の両方がかかっている。

2. 結果

- (1) モーセは、神に従うことに伴う犠牲を学んだ。
- (2) 【主】はエジプトの地で数々の奇跡を行われた。
 - ①「モフェット」 不思議、奇跡、しるし

②エジプト人もイスラエル人も、【主】のような方は他にいないことを学んだ。

結論： このメッセージは、人生そのものを考えさせるものである。

1. 「偶像礼拝」の愚かさについて

(1) 第10の災いで裁かれる神

7. Hathor ハトホル (クロミス - スズメダイの一種 - の守り神。

誕生に立ち会う女神)

21. Isis イシス (農業の女神。誕生と再生の女神でもある)

29. Min ミン (誕生と再生の神)

(2) エジプトの偶像

①およそ80あった(考古学が十分に発達していない)

②働きは重複しており、まだ未解明の部分が多い。

③すべての偶像がなんらかの被害を受けている。

④共通項は、動物や自然現象がやがて人間の形を取ったということ。

*動物は、その神の具体的なイメージである。

*「いのち」をもたらす神々がことごとく打たれた。

*【主】だけが「いのち」をもたらすお方である。

(3) パロの神性は、疑わしいものであることが暴かれた。

(4) 祭司の権威も、疑わしいものであることが暴かれた。

2. 神がなさる区別について

(1) 第4の災い 8 : 23

(2) 第5の災い 9 : 6

(3) 第7の災い 9 : 26

(4) 第9の災い 10 : 23

(5) Iテサ5 : 4~5 再臨(携挙)への備えのベースは、「区別」である。

①クリスチャンは光の中にいる。それゆえ、目を覚まして、慎み深くする。

3. 賜物について

(1) 怒りに燃えて出て行くモーセ。主の命令を為し終えた姿。

(3) 賜物の行使による成長

①「口べた」なモーセ

②偉大な人として尊敬されるモーセ

③みことばへの確信と、使命の実行